



http://www.e-kohji.com

SAN
GI
KYO

http://www.sangikyo.co.jp

株式会社 三技協「e-kohji.com」

ケータイ急成長の原動力をセキュアに支える RSA® SecurID®

通信関連のエンジニアリング会社、三技協は、顧客や協力会社と工事の状況を共有する通信工事のポータルサイト「e-kohji.com」を提供している。進捗状況の確認や予算管理を通じて、納期の遅れやコスト超過を未然に防止し、併せて、社内に蓄積した技術ノウハウをマニュアル化して公開。協力会社に利用してもらうことで工事の品質保証にもつなげている。同サイトでは工事の予算管理や技術ノウハウなど、秘匿性の高い情報をやりとりするだけに、サービス利用に際してセキュアな環境の構築が求められた。RSA SecurIDを導入した経緯ならびにサイト運営におけるセキュリティの重要性について、理事・デジタルビジネスセンター長の高妻啓幸氏、中村善則部長、森山精一郎部長、Webマスターの内藤弘明氏にお話を伺った。



急増する無線基地局の建築・保守

業界全体の効率化を目指す「e-kohji.com」

IT革命の時代を迎え、通信インフラの世界もより一層、高速化・多様化が進んでいる。なかでも携帯電話の累計加入者数が2001年4月には6,000万人に達し、家庭やオフィスにある固定電話の加入回線数を追い抜くなど、今なお急速な拡大を続けている。

三技協は、設立以来培ってきた「無線」の技術を生かし、さまざまな「通信エンジニアリングサービス」に関わってきた。なかでも移動体通信サービスを支える通信局や基地局の建設に関しては、設備の設計から工事、関連システムの開発にいたるまで、各通信キャリアや機器メーカーの業務要請に積極的に対応してきた。

だが、昨今の急激な通信市場拡大にともなう通信関連工事の急速な市場拡大によって、コストの高騰や納期遅れ、品質低下など、さまざまな問題が表出しているのが現状だ。そこで三技協ではこうした問題に対処すべく、顧客や協力会社と工事の状況を共有するポータルサイト「e-kohji.com」を、2000年12月より開始した。

本サイトの設立意図について「設計から施工、保守にいたるまで、品質維持や納期管理は安定した通信環境の提供のためにも極めて重要です。そのためには、通信キャリア、メーカー、そして工事協力会社など、関連する企業が一体となってそれぞれの役割を見直し、情報の共有を図っていかなくてはなりません。e-kohji.comはまさにこうした場の提供を目指すものです」と、高妻センター長は語る。

e-kohji.comの主な機能は2つある。1つは予算管理や工事進捗状況など関係企業全体が情報共有を行う「プロジェクト管理システム」。2つめは三技協がこれまで蓄積してきた工事手順や機器の取り扱いのノウハウを公開する「サイバーマニュアル」。これらは社外とのコラボレーションを狙った機能である。

e-kohji.comには、膨大なプロジェクトの予算管理や進捗状況など、あらゆる情報が集約されている。そこで同サイトへのアクセスに対する万全のセキュリティ対策として、RSAセキュリティのRSA SecurIDが導入された。

株式会社 三技協

無線通信や携帯電話など移動体通信の通信局・基地局の設計や工事、関連システム開発などを手がけ、1965年設立。

「e-kohji.com」は、共有スケジュール管理、電子掲示板を用いたコミュニケーション機能、進捗管理、予算管理、期限告知など多彩なプロジェクト管理サービスを提供。



理事・デジタルビジネスセンター長
高妻 啓幸氏



デジタルビジネスセンター e-kohji プロダクション 部長
森山 精一郎氏



デジタルビジネスセンター IT-Engine 部長
中村 善則氏



デジタルビジネスセンター IT エンジン Web マスター
内藤 弘明氏

RSA SecurID 導入のポイント

- ・手軽に持ち歩きでき、どこからでもアクセス可能な利便性
- ・トークンに企業ロゴやサービス名を入れるなど、独自のデザインの変更が可能
- ・暗証番号 + 認証トークンにより、セキュアな環境を手軽に分かりやすく構築

SecurID で手軽にセキュアな環境を構築、
ログ入りトークンは利用者にも好評

「移動体通信の基地局の設置や保守工事は、ビルの屋上や山奥など厳しい環境下で実施されます。様々なプロジェクトに於て進捗状況や変更情報など、その場ですぐ確認したいと思うことは頻繁にあります。情報更新についても同様。インターネットに接続可能なノートPCに小さなSecurIDさえあれば、時間や場所を問わずどのような状況からもセキュアにアクセスできる、その簡易性に魅かれましたね」システム導入にあたって中村部長は語る。

RSA SecurID の特徴は、何よりその高い利便性にある。利用者はキーフォブ型のトークンに表示される6桁の数字と、暗証番号と続けて入力して本人確認を行う。指紋認証のような専用機器は不要だ。1分毎に変わるワンタイム・パスワードは、固定パスワードのように番号を推察される心配もなく、万一 SecurID を紛失しても暗証番号がなければ認証は行われないので、安全性が確保される。

そしてまた、SecurID には、自社ロゴやサービス名を自由に入れたオリジナルトークンをデザインすることができる。それにより、どの企業の SecurID なのかがひと目で分かるのはもとより、利用者のセキュリティに対する意識向上にも役立っているという。

「トークンに何も特徴がなく他人と同じものだと、つい名前などを書いてしまいがちですが、それではセキュリティ上望ましくありません。e-kohji.com のロゴが入っている SecurID は、SecurID を複数枚持ち歩き、かつプロジェクトに参加している各企業のエンジニアからも、判別しやすいと好評です。当社のアピールにも役立っていると思います」と中村部長は語る。

e-kohji.com のロゴが入った SecurID は、そのセキュリティ機能はもちろん、いわば同サイトの「顔」としての役割も果たしているといえよう。

取引先に技術ノウハウを積極公開
オープンな経営で品質向上を図る

e-kohji.com のプロジェクト管理機能は、これまで三技協の社内で利用してきた従来のプロジェクト管理システムを Web へと全面的に移行したものだ。したがってシステム構築にあたっては既存システムとの親和性についても重視された。

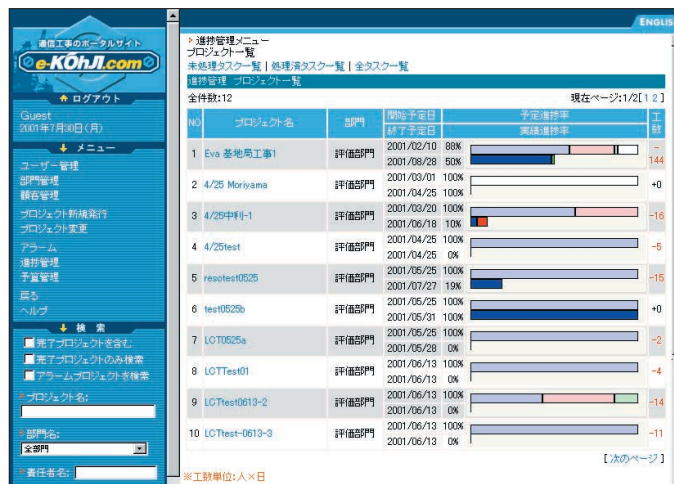
「ファイアウォールに守られた社内システムとの連携を損なうことなく、いかにセキュリティを確保するかがひとつの課題でした。その点、SecurID なら簡単にセキュアな環境を構築できました。認証サーバ等の相互接続性が保証されていたこともあり、稼働開始まで極めて短期間で済みましたね。現在 150 から 300 ものプロジェクトが常時、同時進行しており、そしてまた、企業によっては e-kohji.com 内にカスタムページを設けている例もありますが、いずれも

問題なく使えています(森山部長)

e-kohji.com のもうひとつの機能である「サイバーマニュアル」についても、三技協が長年にわたり蓄積してきた技術ノウハウナレッジを公開するだけに、その取り扱いについては明確なアクセス制限が求められた。

「これまで一部のスペシャリストたちのスキルによって維持されてきた部分もありましたが、このマニュアルに則って工事を行うことで、作業の標準化につながり、一定水準の品質保証が可能になります。確かに社内のノウハウが外に出ることになりますが、SecurID によりアクセス権を持つ人のみが利用できる環境であれば、協力会社にも積極的に公開していきたいと考えています(内藤氏)

通信エンジニアリング事業は、これからの時代を担うものとして、建設業務や保守業務などのあらゆる面で常に最先端をカバーする技術力と、プロジェクト全般において安全を最重視しながら効率的に推進する総合力が求められている。急成長を続ける情報通信業界を根底で支えるサービスとして、e-kohji.com に注目が集まっている。



RSAセキュリティ株式会社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-3-1 東京銀行協会ビルディング
エンタープライズ営業本部 TEL.03-5222-5230
http://www.rsasecurity.co.jp info-j@rsasecurity.com

お問い合わせ先